

「静」と「動」の解析 ー文化遺産の3次元デジタルアーカイブー

文化遺産のデジタルアーカイブは、保存、教育、振興といった面で有用な技術分野である。本講演では、我々のグループで行っている有形・無形文化財のデジタル化技術について概説する。まず、「大仏」や「能面」といった有形文化財の形状をどのようにモデル化するか、色や艶といった見えをどのように再現するか、得られた文化財のデジタルモデルをどのように違和感なく背景にうめこむかなどの「静」的解析について考える。次に、「日本舞踊」などの無形文化財などの動きを観察し、そのCGやロボットによる再現といった「動」的解析についても説明する。最後にこれらの要素技術を利用して生成された「World Buddha Library」などのデジタルコンテンツも紹介する。

講 師 池内 克史 氏

(東京大学生産技術研究所 教授)

略 歴:

昭和53年	東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻 博士課程修了・工学博士
昭和53年-55年	マサチューセッツ工科大 人工知能研究所 助手
昭和55年-61年	通産省工技院 電子技術総合研究所 研究官/主任研究官
(昭和57年-58年)	通産省在外研究員としてマサチューセッツ工科大に滞在)
昭和60年-平成8年	カーネギーメロン大学 計算機科学部 研究準教授/研究教授
平成8年-	東京大学 生産技術研究所 大学院情報学環 教授 コンピュータビジョン、特に明るさ解析、物体認識、ロボットの目、ITSセンシングの研究に従事。

受賞等:

D.Marr 賞、IEEE・K-SFu 記念論文賞、国際人工知能誌最多引用賞等受賞
IEEE Fellow,
IEEE Distinguished Lecturer (SP Society 00-01, CS Society 04-06)